

授業改善書

科目名	心理学概論Ⅱ
担当者	泉水 紀彦

授業の概要

本講義では、心理学の主要理論を、日常生活の中で経験する様々な事柄と関連づけて紹介し、人の心の基本的な仕組みや働きについて概説する。また、“科学”としての心理学がどのように形成され、発展してきたのかについて、心理学の研究史や研究法の概要についても紹介する。4年間の心理学の学びの基本を経験・理解することが本講義の目標である。

授業の問題点

ほとんどの質問項目は、評定が4以上であるが、質問や発言の有無(3.12)の質問項目は低評価であった。昨年度は、授業外学習は3.24であったが、今年度は3.79に上昇した。今年度は期末テストをすべて持ち込み可ではなく、一部持ち込み可にしたため、復習をする機会が増えたと考えられる。

学生の授業満足度

授業内容に得るものがあったか(4.48)、授業は満足できたか(4.38)となっており、(全体と比較できないが)どちらも高評価であった。

授業改善の課題と方策

おおむね高評価であり、次年度も同様の授業進行が望ましいと考えられる。特に、期末テストの持ち込み資料作りは効果的であった。持ち込みされた資料と期末テストの成績を精査したところ、多くの学生がしっかりと資料を作っていた。このような体験を通して、学生が学習習慣をつくる良い機会になっていると考えられる。

その他

特になし

授業改善書

科目名	神経生理心理学（生理心理学）
担当者	泉水 紀彦

授業の概要

行動や感情は中枢神経系の活動により引き起こされる。生理心理学は、生理学的手法を用いて脳と行動の関係を調べ、人間の「心」やそのメカニズムを明らかにしようとする学問である。本講義では神経活動の基本から始め、身体機能の生理学的基礎をふまえながら、知覚・学習と記憶・感情・ストレスなどをとりあげ、これらがどのような神経メカニズムにより成立しているのかを解説する。また生理心理学の基礎的研究や臨床場面への応用（精神障害、高次脳機能障害）について学ぶことで、心を生み出す脳の仕組みについて理解を深める。

授業の問題点

ほとんどの質問項目は、評価が4以上であるが、授業外学習（3.35）、質問や発言の有無（3.03）の質問項目は低評価であった。講義形式であったため、学生を指名して発言を求めることがなかった。また中間テストと期末テストどちらも、授業資料すべてを持ち込み可としていたため、十分復習する機会を作ることができなかった。

学生の授業満足度

授業内容に得るものがあつたか（4.49）、授業は満足できたか（4.41）となっており、（全体と比較できないが）どちらも高評価であった。
教員の説明がわかりやすかつたか（4.41）については、昨年度（4.69）よりも低下していた。

授業改善の課題と方策

おおむね高評価であり、次年度も同様の授業進行が望ましいと考えられる。
しかしながら、予習復習の点に対応するため、テスト時は一部持ち込み可にして復習を促していきたい。

その他

特になし